意見及び質問とその対応について

1 第1回審査会での意見及び質問事項

(1) 広島市環境影響評価条例の改正について

意見及び質問の概要		事務局の回答
意見のフィードバック	方法書、準備書、評価書の電子縦覧は義務化されたが、縦覧後の意見のフィードバックについては、何か改正があったのか。(坂本委員)	提出された意見は、事業者が意見に対する見解を付して取りまとめたのち、市に送付されるとともに、評価書に全て記載されます。この点の改正はありません。
法改正事項の施行前手続き	法改正事項のうち、未施行の部分について、現時点で事業を実施したいという申請があった時には、どのように対応するのか。(奥田委員)	未施行部分の配慮書及び報告書手続については、施行日の平成25年4月1日以降にアセス手続を開始する事業のみ、実施することになります。
スクリーニング	方法書の前にスクリーニングがあり、環境影響評価の実施の可否を判定していたが、配慮書手続が入ると、最初に第1種、第2種を判断して配慮書に取り掛かることになるので、スクリーニングの手続きが一番最初の配慮書手続の前にくるのではないのか。(長谷川委員)	法第1種事業は配慮書手続が必須ですが、第2種事業では手続実施の可否は事業者の任意とされ、配慮書手続の実施について判断する一連の手続はありません。 このことについては、資料2に基づき、再度説明します。(資料2)
配慮書手続	市は配慮書手続を要綱で運用しているが、今回、法律が改正されたことを受けて、今後要綱の内容を条例に組み込む予定はあるのか。(長谷川委員)	配慮書手続の条例化については、3月に国から出される評価方法等をまとめたマニュアルや今後の他都市の実施状況を見て検討していきます。
風力発電	風力発電所では、3,000kWのもので1.17haの土地の改変が行われるとのことですが、今後高性能になると、この面積と出力の関係が変わってくるのではないのか。(林委員) 対象規模を下げれば、多くのものを事前に評価でき、規模を大きいものにする、高さの高いものでも、対象事業にはならない可能性がある。規模を県より小さくしたほうが良いのではないのか。(今川委員) 県は5,000kWとしているが、風車近くに住んでいる人には1基でも影響があると報告されているので、規模をもう少し見直してほしい。(小阪委員)	風力発電の規模は、土地改変面積ではなく出力を指標とします。 風車1基から騒音等の被害が生じていることや、景観、バードストライク等の観点から、市条例の対象規模は、現段階では、平均的な風車1基の規模である1,500kW程度とすることを考えています。(資料3)

(2) 技術指針の改定について

意見及び質問の概要	事務局の考え方	修正か所
<p>従前の環境要素は、ある程度共通した項目が挙げられているが、風車の影は風力発電だけの要素である。日照の一部として説明を加え、新しく項目立てしなくても良いのではないか。(長谷川委員)</p>	<p>今後、他の事業が増えても、風車の影は考えられないので、風車の影を日照阻害の一部とし、記述を「日照阻害：日照（影）の状況」とします。</p>	<p>資料4</p>
<p>風車の影については、シャドーフリッカーが問題となるが、案ではそのことが明示されていない。シャドーフリッカーのことを明示したほうが良いのではないか。(林委員)</p>	<p>「別表3 環境要素」の細項目の日照阻害に係る注釈で「影が回転して地上に明暗が生じる現象(シャドーフリッカー)を含む」と記載します。</p>	<p>資料4</p>
<p>風車の影（シャドーフリッカー）の予測では、日影図を作成するとされているが、季節により大きな違いがあるため、「年間を通じて」などの記述があるほうが良いのではないか。(林委員)</p>	<p>風車の影（シャドーフリッカー）の予測については、日照阻害の一部として記述することとし、予測時期を「日照阻害の特性を踏まえて日照阻害に係る環境影響を的確に把握できる時期」とします。</p>	<p>資料4</p>
<p>風車の影の予測内容及び手法が日影線の作成で、予測地域は日影線の内側に入るので、その中で影響を的確に把握できる予測地点と言われても良く分からない。「環境影響を的確に把握できる地点」よりも「環境影響が実際に問題となる地点」とかの表現が良いのではないか。(内藤委員)</p>	<p>予測地点については従前の日照阻害の予測地点の考え方と同様に定めません。</p>	<p>資料4</p>
<p>技術指針別表5の騒音の予測では、「予測項目は騒音（音圧）レベルとする。」とあるが、騒音レベル又は音圧レベルのどちらかで評価すればいいと事業者が判断した場合、低周波音が問題となる事業でも低域を下げる騒音レベルで評価して、問題ないと回答する危険性がある。</p> <p>調査と併せて、低周波音の発生が考えられる場合は音圧レベルで予測すると指定したほうが良い。(中西委員)</p>	<p>低周波音の予測については、音圧レベルで予測することを明示します。</p>	<p>資料4</p>

意見及び質問の概要	事務局の考え方	修正か所
<p>風力発電を新規事業とするため技術指針の改定を行うということだが、新しい対象事業として認識される、あるいは区別されるのはどのような基準に基づいているのか。(奥田委員)</p>	<p>対象事業の追加は、事業種ごとに環境への影響の程度と市域での実施可能性の観点から検討しています。例えば、地熱発電所や原子力発電所は、環境影響は大きくても、市内で実施の可能性がないため対象にしていません。</p> <p>風力発電所は、騒音等の環境影響があり、市域で実施される可能性があることから、対象事業への追加を検討しています。</p>	—
<p>シャドーフリッカーは人への影響とされていたが、日射量の減少がどの程度になるか分からないが、作物なども、フリッカーによって何かしらの影響があるのではないか。そのことは配慮の対象にはならないのか。(河野委員)</p>	<p>シャドーフリッカーは、影の明暗による人への不快感を対象にしたもので、植物については、日照障害（日射量の減少）で扱う事項と考えます。</p>	—
<p>参考資料の苦情の発生状況で、「動物・植物・生態系」と植物、動物以外の生態系というカテゴリーで何らかの苦情があります。しかし、環境影響評価項目の選定状況では、鳥類、植物、景観に分けてあり、生態系が外れている。特に生態系で苦情が出てきているのにもかかわらず、項目に選定しない理由があるのか。(奥田委員)</p>	<p>参考資料は、環境省の報告書から条例アセスと自主アセスの事例を取りまとめたものです。</p> <p>表には示していませんが、条例に基づいて行われた風力発電所のアセス事業では、生態系を項目に選定しています。</p> <p>また、この度の環境影響評価法に基づく風力発電所アセスにおいても、生態系を選定すべき項目としており、今後市条例に基づきアセスが実施される場合にも生態系が項目選定されるものと考えています。</p>	—
<p>参考資料3では、土砂災害のおそれがあるところが風力発電の適地になっている。防災の観点から、その位置に風車が建つときに、災害が起きるおそれがある。(今川委員)</p>	<p>宅地造成等規制法、都市計画法等の他法令の規制もかかるため、事業者と開発部局等で検討が行われ、防災上の観点から審査が入ることになります。</p>	—